

社会科学古典資料センター長に就任して

As the Newly Appointed Director of the Center for Historical Social
Science Literature

山 部 俊 文

YAMABE Toshifumi

2014 年 12 月 1 日付にて附属図書館長の任に関ることとなり、同時に社会科学古典資料センター長の任にも関ることとなりました。附属図書館長としては 29 代目、社会科学古典資料センター長としては 16 代目となるようです。

「社会科学古典資料センター」という名称からして、「宝物」が収まっていることが窺われますが、実際に、本センターには、本学の先人が収集した社会科学の「宝物」が多数所蔵されています。本学関係者には耳慣れた「ギールケ文庫」(1921 年収蔵)、「メンガー文庫」(同 1922 年)、「左右田文庫」(同 1929 年)をはじめ、「フランクリン文庫」(同 1974 年)、「ベルンシュタイン＝スヴァーリン文庫」(同 1980 年)等の各種コレクションがその代表的なものとなりますが、それら以外にも、1850 年以前に作成・刊行された多数の西洋近代の貴重な書籍・資料等が所蔵されています(1850 年以降に作成・刊行されたものは、「現役」の資料として附属図書館に所蔵されています)。これらの中には、西暦 1300 年頃に筆写されたマグナ・カルタ、太陽王ルイ 14 世の署名とコルベールの副署が記された文書、フィレンツェのメディチ家の 15 世紀の帳簿、わが幕末期に来航し俘囚の憂き目に遭ったロシアのゴロウニン所持(本人の書き込みもある)の仏露辞書等々が含まれ、さらに本学の草創期に使用された英文の教科書・参考書の類もあります。

「宝物」は実際に研究に利用されることによりさらに価値が高まります。本学の教員・学生はもとより、わが国及び世界の研究者には、是非とも、本センター所蔵の文献等について研究を進めて欲しいところです。他方で、それらを研究において直接に利用しなくとも、手を伸ばせばすぐそこに(本センターに)、わが国が明治期以降に欧米から持ち込んだ膨大な知識の源泉である西洋近代の社会科学の古典籍、しかもその現物がある、ということ自体が、本学はもとよりわが国の社会科学系研究者のいわば「安心立命」に繋がっているところもあるように推測しています。実際に、これらの貴重図書は、見るだけで心が躍ります。

これらの「宝物」を所蔵する本センターは、昭和 53 年(1978 年)に附属図書館から分離する形で設置されました。その目的は、「一橋大学附属図書館所蔵の社会科学古典資料を集中的に管理運営するとともに社会科学古典資料を収集して、これを研究者の利用に供することにより、社会科学の向上に寄与すること」にあります(一橋大学社会科学古典資料センター規則 1 条)。本センターは、この目的を達成するために、社会科学古典資料の「整理・保管」、「情報の提供」、「調査・収集」にあたるほか、「必要な業務」を行うこととされ(同規則 3 条 1 号ないし 4 号)、現在、本センターでは、社会科学古典資料の新規受入れ、目録の作成、修復作業(修復工房による)、保存・管理業務、各種の講演会及び講習会の開催、中学生・高校生を

対象とする体験学習、社会科学古典資料を中心とする調査・研究等の多彩な活動を、着実かつ積極的に行っています。

「一橋大学社会科学古典資料センター年報」は、今回で 35 号を数えます。本誌は、本センターの単なる活動報告ではありません。本誌は、本センター所属の研究者を中心に、レベルの高い論攷を掲載する研究誌です。また、本センターでは、古典資料を題材とする研究論文を Study Series として年に 2～3 冊のペースで刊行しています（最新のものは 71 号）。このように、本センターは、社会科学古典研究及びその発信拠点としての役割も担っています。

社会科学分野の古典資料・貴重図書等の収集、修復、保存・管理等の作業は、一見すると地味な一面があるかもしれませんが、本学にとって、さらにわが国のみならず世界にとっても、重要な意味を有しています。本センターの事業の発展のために、微力ながら力を尽くしたいと考えています。

（一橋大学法学研究科教授、社会科学古典資料センター長、附属図書館長）